

# EUSA-JAPAN Newsletter

No.21 Aug. 2008

日本EU学会

## ◇理事長メッセージⅣ

庄司 克宏（慶應義塾大学、ジャン・モネ・チェア）  
今秋、理事選挙があります。皆さんの選挙権を行使して下さい！

### 1. 4年に1回の理事選挙年です！

今秋10月から11月にかけて日本EU学会理事会構成員の選挙が実施されます。これまで理事は指名制で任期が自動更新されていました。それを見直して本学会の民主的正統性を高めるために選挙制が導入されました。すべての会員が選挙に参加下さいますよう心から願っております。

なお、郵送による投票と研究大会第1日目の現地投票のいずれかを選択できることとなっておりますが、確実を期してぜひ郵送投票をご利用下さい。10月頃に投票用紙が皆さんのお手元に届く予定になっております。

### 2. 分科会が一層充実します！

ニューズレター前号において、「分科会をいわば「道場」のような形で一層充実させる」ことをお約束しましたが、その一環として分科会の報告時間を全体セッションと同じにしました。これにより報告30分、質疑20分が確保されるため、質の高い研究報告と活発な討論が一層期待されます。

年長の会員の皆様、若手の最新研究から学ぶ一方で、どうか若手会員を分科会の場で「鍛錬」下さいますようお願いいたします。若手会員の皆様も、どうか年長の会員の「胸を借りる」つもりで研究報告にチャレンジ下さい。このようにして会員の世代間の絆が深まれば幸いです。

### 3. 今年の研究大会は環境がテーマです！

今年は11月22-23日（土、日）に静岡県立

大学で研究大会が開催されます。共通論題は「EUの環境ガバナンスとグローバル社会」です。本学会の名誉会員である岡村堯・地球環境・経済研究機構理事長（上智大学名誉教授）にキーノート・スピーチを頂くとともに、ほんの一例にすぎませんが実務家（弁護士）による排出量取引制度の日・EU比較など興味深い研究報告が目白押しです。分科会にも楽しみな報告が沢山用意されており、どれを聴こうか迷うほどです。また、駐日欧州委員会代表部のご尽力で例年招待している外国人ゲストスピーカーですが、ルーヴァン大学のデルマルティーノ教授（Prof. Delmartino）に決まりました。EUのガバナンス・システムについて講演頂く予定です。

それでは皆さん、秋に静岡でお会いしましょう。

追伸 双方向のコミュニケーションをめざして、1週間に1度、ぜひEU学会ウェブサイト <http://wwwsoc.nii.ac.jp/eusa-japan/> にアクセス下さい。メール等による直接のインプットも歓迎いたします。

## 目次

|                     |       |
|---------------------|-------|
| 理事長メッセージⅣ           | 庄司 克宏 |
| 海外研究レポート            | 鈴木 均  |
| 事務局からのお知らせ          |       |
| 新入会員一覧              |       |
| 次期（2008年）研究大会開催について |       |
| 広報委員会から             |       |
| ニューズレターの電子メールでの配信   |       |
| ニューズレター原稿の募集        |       |

## ◇海外研究レポート ～EU 欧州大学院 (EUI) への留学を終えて

鈴木 均 (慶應義塾大学)

2002年9月から2007年12月まで在籍したフィレンツェの欧州大学院 (EUI) 博士課程での日々を振り返りたい。EUI は最先端の欧州研究を促進するために1976年に開校した博士課程のみの大学院大学であり、政治、経済、法、歴史文明、合計4学科からなる。加えて学科間の共同研究を促進するロバート・シューマン・センター (現校長のイヴ・ムニイ先生が開設)、語学センターと、欧州共同体史料館がある。

2007年12月13日に歴史文明学博士号を取得することができたが、そこに至る過程は平坦ではなかった。経済史家アラン・ミルワードがEUIを去る前年、彼に慶應義塾大学大学院での研究テーマ「ドイツの労働運動とシューマン・プラン」についてメールで質問をしたところ、思いの外いい返答をいただいたため、突如フィレンツェ行きが決まった。EUIの入学試験は複雑であるが、合格した欧州諸国 (および地中海沿岸のアフリカ諸国、ロシア、中南米諸国) 出身の学生は、自動的に自国政府奨学生あるいはイタリア政府奨学生となり、学費は全額免除になる。同期の岩佐拓郎と共に日本人として初めてEUIに入学した私は、これらの制度枠組みから外れたため、終始財政難に苦しんだ。また、観光地としては最高のフィレンツェも、住居を探し、日常生活用にイタリア語を身に付け、博論執筆のために英語の授業も取る「付帯義務」が発生すると、なかなか大変であった。欧州諸国出身の学生は最初の一ヶ月でイタリア語会話を習得し、その後平均4、5ヶ国語を身に付けて巣立っていった。ついていくのが精一杯であったが、気付いてみれば在学中に独仏伊3ヶ国語を学んでいた。

博士論文を執筆するための作業は、どこの国に行っても大差はないのかもしれない。他の欧

州諸国の大学院と比べてEUIに特徴があるとしたら、研究内容および研究発表において常にマルチ・ラテラルであることを強く求められることかもしれない。ミルワードの後任として2003年2月に赴任したパスカリン・ウィナン先生 (現モナシユ大学欧州研究所所長) のもと、欧州各国および米国での史料収集に励む研究生生活が始まった。そして先生の知己を通じて、その後イタリア、ドイツ、スイス、イギリス、ベルギーで学会発表をする機会に恵まれた。

EUIで研究するメリットとして最も大きなものの一つは、おそらくEUI付属の欧州共同体史料館の存在であろう。自身歴史家でもあるジャン・マリ・パラレ氏が所長を勤めるこの史料館は、歴史実証研究をする者にとっては宝の山であった。そしてEUIは世界レベルで高名な先生を4年任期 (一回延長可能、最長8年) で呼び寄せるため、教授陣は常に贅沢な顔ぶれであった。有名政治家を含め、訪れるゲストの顔ぶれも豪華だった。しかし欠点がないわけではない。常に先生が入れ替わるため、研究途中で指導教授がいなくなり、テーマを変えざるをえない学生も少なくなかった。またEUIの意思決定は、各EU加盟国代表理事が構成する (政府間会議のような) 理事会が担うため、人事でもめ、専任教授が一時いない講座もあった。しかしこれらの弊害を回避すれば、EUIは最高の研究環境であろう。おかげさまで岩佐氏は2007年10月に、私は12月に、晴れて博士号を取得することができた。末筆ながら、留学中に様々な形でご支援ご指導をいただいた学会員の皆様に御礼申し上げます。EUIおよび付属史料館を使った研究活動が今後より一層活発になることを祈念する。

## 事務局からのお知らせ

### ◇ 新入会員一覧

2008年5月の理事会で承認された方々

\* 氏名(専攻分野)・所属

1. 松本 和朗(P) 大阪学院大学
2. 八木 紀一郎(E) 京都大学
3. 森 周子(SC) 西武文理大学
4. 山本 健太郎(P) 関西学院大学
5. 山本 健(P) 名古屋商科大学
6. 廣瀬 陽子(P) 静岡県立大学
7. 山本 健兒(E) 九州大学
8. 山田文比古(P) 東京外国語大学
9. 大島 堅一(E) 立命館大学
10. 喬 宇(P) 筑波大学博士課程後期
11. 松村 敦子(P) 東京国際大学
12. 小林 誠(P) 日本放送協会
13. 益田 実(P) 三重大学
14. 川嶋 周一(P) 明治大学
15. 申 昌鉉(E) 日本大学博士課程後期
16. 岡本 宜高(P) 神戸大学博士課程後期
17. 黄田明日香(L) 慶應義塾大学法務研究科(院)

### ◇ 次期(2008年)研究大会開催について

2008年度研究大会プログラム(暫定版)をお知らせ致します。なお、以下のプログラムはあくまでも暫定版ですので、最終的なプログラムは、後日送付させて頂く研究大会プログラムでご確認ください。

- (1) 開催校： 静岡県立大学
- (2) 日時： 2008年11月22日—23日
- (3) 共通論題： EUの環境ガバナンスとグローバル社会

第1日(11月22日)

会場(受付開始)12時  
理事会は11時に開催します。

### 共通論題

「EUの環境ガバナンスとグローバル社会」

### 全体セッション第I部(13時—15時10分)

報告時間30分、質疑20分

基調報告のみ報告30分(質疑なし)

司会者 福田耕治(早稲田大学)

(1) 報告者：岡村堯(地球環境・経済研究機構理事長)

論題：(基調報告) EUの環境ガバナンスとグローバル社会

(2) 報告者：臼井陽一郎(新潟国際情報大学)

論題：EUの持続性戦略と欧州統合の行方

(3) 報告者：大島堅一(立命館大学)

論題：EUにおける統合された環境・エネルギー政策

### 全体セッション第II部(15時30分—17時20分)

報告時間30分、質疑20分

ゲストスピーカーの講演は40分、質疑20分

司会者：正井章榘(早稲田大学)

(1) 報告者：由布節子(弁護士)

論題：日・EU排出権取引制度及び実務の比較

司会者：羽場久美子(青山学院大学)

(2) 報告者：Professor Dr. Frank Delmartino,  
University of Leuven

論題：The Lisbon Treaty and the strengthening  
of the EU's system of governance

総会(17時20分—17時40分)

懇親会(18時—20時)

## 第2日目 (11月23日)

開場 (受付開始) 9時00分

分科会 (9時30分-12時15分:各報告時間30分、質疑20分、休憩5分)

### 【区分 A】

司会者:岩田健治(九州大学)

(1)報告者:明田ゆかり(慶應ジャン・モネ EU 研究センター)

論題:貿易と環境の調和:EU方式の発展とWTOにおけるその影響

(2)報告者:市川芳治(日本放送協会)

論題:環境政策とEU競争法-現代化(“Modernisation”)の文脈から-

(3)報告者:山本健兒(九州大学)

論題:グローバリゼーションのもとでの欧州の都市政策-ドイツ都市の問題街区再生事業に焦点を当てて-

### 【区分 B】

司会者:辰巳浅嗣(阪南大学)

(1)報告者:吉崎知典(防衛研究所)

論題:EUと平和構築-治安部門改革へのヨーロッパ流アプローチ

(2)報告者:中村登志哉(長崎県立大学)

論題:欧州安全保障秩序とドイツ:メルケル政権の課題とディレンマ

(3)報告者:山地哲也(海上保安大学校)

論題:欧州連合における海上安全及び海洋環境保護政策-船舶の避難場所に関する指令審議-

### 【区分 C】

司会者:田中俊郎(慶應義塾大学)

開催校「広域ヨーロッパ研究センター」提供特別シンポジウム:拡大EUと新たな近隣諸国[英語使用]

(1)報告者:小久保康之(静岡県立大学)

論題:欧州近隣政策の評価と課題

(2)報告者:六鹿茂夫(静岡県立大学)

論題:欧州近隣諸国政策の東方次元:成果の比較分析

(3)報告者:ミヒャエル・ライテラー(駐スイスEU大使)

論題:地中海連合か、バルセロナプロセスの見直しか

昼食・休憩/理事会(12時15分-13時15分)

総会(13時15分-13時30分)

### 全体セッション第Ⅲ部(13時30分-16時)

各報告時間30分、質疑20分

司会者:久保広正(神戸大学)

(1)報告者:岩松邦郎(神戸大学・院)

論題:バイオ燃料に関する環境・エネルギー政策の動向とEU主要国の対応状況における比較分析

(2)報告者:八谷まち子(九州大学)

論題:EUのエネルギー安定供給確保とトルコ加盟の展望

(3)報告者:蓮見雄(立正大学)

論題:EUの対外エネルギー政策とロシア:EU・ロシアのエネルギー対話の展望

---

## 広報委員会から

---

### ◇ ニュースレターの電子メールでの配信を開始

学会ニュースレター前号(No. 20)の広報委員会からのお知らせ記事「学会ニュースレター等の電子化に関する重要なお知らせ」でご案内したとおり、本号よりニュースレターの電子メールでの配信を開始します。配信に当たっては、日本EU学会『会員名簿』に掲載されている電子メール・アドレスを利用させていただいております。

『会員名簿』に電子メール・アドレスが掲載されていない会員には、引き続き郵送での配布となります。電子メール・アドレスの学会への登録がお済みでない会員は、『会員名簿』更新の際に是非お済ませ下さい。

また『会員名簿』に電子メール・アドレスが掲載されているにもかかわらず、このニュースレターを郵送で受け取った会員は、『会員名簿』登録のアドレスが利用できない状態となっている可能性があります。ご自身の現在の電子メール・アドレスが正確に記載されているか、いま一度『会員名簿』をご確認頂き、必要な修正をお願い申し上げます。

上記の新規登録や修正に関しましては、学協会サポートセンター([scs@gakkyokai.jp](mailto:scs@gakkyokai.jp))までご連絡下さい。皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

(広報委員長 岩田健治)

### ◇ ニュースレター原稿の募集

広報委員会では、会員の皆様方からのご寄稿を幅広くお待ちしております。最近のご研究動向、在外研究や出張の成果報告、日本のEU研究への提言、日本EU学会への要望など、内容は問いません。学会の財政難の折、原稿料をお支払いすることは出来ませんが、積極的にニュースレターを活用していただきたいと思っております。尚、ご寄稿いただいた原稿のニュースレターへの掲載については広報委員会で検討させていただきます。ご要望に添えない場合はご容赦下さい。

分量：横書き 1200 字程度。

期限：随時受け付けますが、ニュースレターの夏・冬年 2 回発行にあわせ、6 月末日と 11 月末日がそれぞれ締め切り日となります。

提出先：広報委員会(松浦)の住所または下記メールアドレスまで添付ファイル(ワードか一太郎)にてお送り下さい。

〒790-8578 松山市文京町4-2

松山大学 松浦一悦 宛

Tel:089-925-7111

Fax:089-922-5415 (総合研究所)

[matsuura@cc.matsuyama-u.ac.jp](mailto:matsuura@cc.matsuyama-u.ac.jp)

## ◇ 編集後記

今年7月に開催された北海道洞爺湖サミットでは、2050年までに温室効果ガス排出量を半減させるという長期目標を「世界全体の目標」として採用することを参加国が認識することで、閉幕した。昨今の原油価格の高騰は原油の需要を引き下げる要因となるので、化石燃料の消費を抑制しCO<sub>2</sub>削減に寄与するのでは、とも思えるが、問題はそれほど単純ではない。

原油価格の上昇は食糧価格の高騰をもたらしているが、さらに、化石燃料の代替エネルギーとしてバイオ燃料が普及することも、食糧価格の高騰を招く原因になっている。食糧価格の高騰によって最も被害を受けている途上国は、温室効果ガス排出量削減には消極的である上に、先進国のバイオ燃料開発に批判的である。

確かに原油・食料価格の高騰は世界で一致して取り組む問題であるが、先進国、産油国および途上国の間では問題の認識に温度差があり、利害が錯綜しているため、即効性のある解決策は今のところ見つからない。こうした世界情勢の中で、EUは環境問題に対してどのような主導権を発揮できるのだろうか。

食糧・エネルギー価格の高騰と地球環境の保全というグローバルな問題が大きくクローズアップされる今日で、次回の研究大会はまさにこの問題を共通テーマにしており、当日の大会では活発な議論が行われることを期待したい。

今回は鈴木会員からご寄稿をいただき、ありがとうございました。今後も、会員の方からのユニークな寄稿をお願い致します。

松浦 一悦 (松山大学)

日本 EU 学会ニューズレター 第 21 号

(2008 年 8 月 1 日発行)

発行 行 日本 EU 学会 広報委員会

発行責任者 岩田健治

九州大学経済学部

〒812-8581

福岡市東区箱崎 6-9-1

TEL&FAX : 092-642-4451

E-mail : iwata@en.kyushu-u.ac.jp

編集責任者 松浦一悦

松山大学経済学部

.....

日本 EU 学会事務局

同志社大学法学部 鷲江義勝研究室

〒602-8580

京都市上京区今出川通

烏丸東入玄武町 601

TEL&FAX : 075-251-3620

ywashie@mail.doshisha.ac.jp

(日本 EU 学会 HP アドレス)

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/eusa-japan/index.html>